

第 46 回宇都宮市民芸術祭 工芸部門 審査総評

第 46 回宇都宮市民芸術祭工芸部門は、前回より少ない 25 点の応募がありました。審査の結果は 入選 25 点 選外 0 点

今回も、それぞれが思い入れの大きさと真摯な向き合いを感じる作品でしたが、入落に関しては、技術的評価の他、作者の意図や熱意を考慮して審査員全員で討議を重ねた結果が、入選 25 点となりました。

入賞は、市民芸術祭賞 1 点、準市民芸術祭賞 2 点、奨励賞 5 点、秀作 6 点となりました。

■市民芸術祭賞の「翔葉」―陶芸―

フォルムの美しさや斬新さ、技術の高さ等、完成度も高く最多の票を集めました。

■準市民芸術祭賞「Family」―木竹―

梟の仕上がりの丁寧さや目の色もそれぞれ変える等、配慮にも気を配った作品に票が集まりました。

■準市民芸術祭賞「Jewelry Box」―木竹―

技術的高さや実用としての細部への細かな配慮と工夫が票を集めました。

学生の作品は、製作に対する熱意や思いが良く伝わり、新鮮に感じる作品が多く、今回は高校生 2 人が奨励賞、秀作を受賞しました。今後の出品も楽しみです。

金工やつまみ細工等の新しいジャンルの作品も出品があり、今後さらに幅広いジャンルの出品作品への期待が高まります。

展覧会は、自分の作品を客観的に見ることができ、他の作品との比較や、新しいアイデア等も発見でき、さらなる創作意欲が湧く作品向上の機会ともいえます。

多様な作品が並び、来場者もさらに楽しめる宇都宮市民芸術祭になるよう、多くの方々の出品を期待します。

審査長 江田 蕙